

# 少子高齢医師不足 －障がい児(者)医療の現場から－

飛田 宗重<sup>†</sup>第73回国立病院総合医学会  
(2019年11月9日 於 名古屋)

IRYO Vol. 74 No. 11/12 (491-493) 2020

## 要旨

山形県は医師偏在指数47都道府県中40位で医師不足が顕著であり、国立病院機構米沢病院（当院）が属する二次医療圏では全国に先駆けて医療機関の統合再編を実施し必要医師数を確保してきた。当院は重症障がい児(者)病棟120床、神経難病病棟50床、一般病棟50床を有し、セーフティネット医療（障がい児(者)医療、神経難病医療等）を主に担当しているが、県全体が医師不足なこともあり医師給与は高額で常勤医師招聘は非常に困難な状況にある。この状況下で診療機能を維持し良質な医療を提供する方策として、多数の非常勤医師の採用を実施した。診療科は12と多く、当院の診療機能充実に多大な貢献をいただいている。この方策が経営安定にも寄与し、長期的に継続可能であることも確認している。常勤医師の負担軽減効果があり、常勤医師の資格取得（学位、学会認定専門医・指導医）、臨床研究、海外留学等の成果につながっている。当県の高齢化率は全国6位と抜きんでており、今後も少子高齢化が進行し、生産年齢人口激減が確実視されている。喫緊の課題として医師・看護師、メディカルスタッフの確保対策が求められている。

キーワード 少子高齢化, 医師不足, 障がい児(者)医療

## はじめに：山形県の医師不足の現状

厚生労働省の公表資料<sup>1)</sup>によれば、山形県は医師偏在指数47都道府県中40位で医師不足が顕著であり、国立病院機構米沢病院（当院）が属する<sup>おきたま</sup>置賜二次医療圏では全国に先駆けて医療機関の統合再編を実施し必要医師数を確保してきた。すなわち2000年11月に置賜地方2市2町（長井市、南陽市、川西町、飯豊町）の自治体4病院を、救命救急センターを有する公立置賜総合病院とサテライト病院として公立置賜長井病院、公立置賜南陽病院、公立置賜川西診療所、飯豊町国保診療所に統合再編し現在に至る。

米沢市では医師不足から救急医療体制の維持が困難となっており、急性期2病院（米沢市立病院、三友堂病院）の急性期機能を市立病院に集中、三友堂病院は回復期病院として2023年に再編することが決定している。

## 医師不足の状況で診療機能を維持する方策：

山形県全体が医師不足なため医師給与は高額で常勤医師招聘は非常に困難な状況にある。当院は重症障がい児(者)病棟120床、神経難病病棟50床、一般病棟50床を有し慢性期医療を主に担当しているため

国立病院機構米沢病院 † 医師

著者連絡先：飛田宗重 国立病院機構米沢病院 院長 〒992-1202 山形県米沢市大字三沢26100-1

e-mail : tobita\_muneshige.ek@mail.hosp.go.jp

(2020年3月23日受付, 2020年6月12日受理)

Problems of the Declining Birth Rate and Increasing Aging Population: Shortage of Doctors from the Perspective of Medical Care for the Disabled

Muneshige Tobita, NHO, Yonezawa National Hospital

(Received Mar. 23, 2020, Accepted Jun. 12, 2020)

Key Words : declining birth rate with increasing aging population, shortage of the doctors, medical care for the disabled